ボランティア・市民活動情報誌

COMVO

2023
1・2月号
合併号
vol. 273

communication x voluntary

特　集

誰一人取り残さない
SDGs「持続可能な開発目標」

都会の小さな自然を見つめ 学び、守り、未来へつなぐ

認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター

5 生きづらさを乗り越えて
『性別違和』当事者に寄り添う
ライフホスピタリティマネジメントサービス

7 ボラ基金交付団体へ突撃取材
『ダブルケア』の人たちの身近な拠り所
任意団体 君彩（きみどり）

和歌山の海のいきものをテーマにモビールづくり

特集

誰一人取り残さない
SDGs「持続可能な開発目標」

4 質の高い教育をみんなに
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう

都会の小さな自然を見つめ 学び、守り、未来へつなぐ

認定特定非営利活動法人
大阪自然史センター

豊かに樹木が生い茂る山、清らかな水をたたえる海や川…。そんな自然の風景に出会うことが難しくなってしまった大阪のような都市部。でも意識して観察してみると、家の近くの公園や水辺にも、さまざまな植物が根を張り、鳥や昆虫などの生き物が暮らしています。そして太古の昔にも、さまざまな生き物が暮らしていたことを骨や化石が教えてくれます。

今回は、1955年に「大阪に自然史博物館をつくりたい」と願う市民たちで発足した会（現在の大阪市立自然史博物館友の会）を母体とし、現在は、大阪市立自然史博物館と協働し、身近にある自然の魅力を発信する活動に力を注いでいる、『認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター』をご紹介します。

こどもたちの好奇心を満たす体験を博物館で

『認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター』（以下、センター）では、大阪市立自然史博物館（以下、博物館）と協働し、博物館内での『子どもワークショップ』に取り組んでいます。これまで

およそ18年間、さまざまな自然をテーマに開催を続けてきました。

「いまの自然はもちろん、人が暮らす前からの自然にも興味を持ってもらい、自然の大切さを感じてもらえることをコンセプトにしています。」

そう話すのは、センターの普及教育事業担当の米澤里美さん（以下、米澤さん）。私立高校での生物授業助手、博物館での標本づくりなどのアルバイトを経てセンター職員となった、根っからの自然好きです。

「博物館には展示されているもの以外にも、収蔵庫にはその何十倍もの標本や資料などがあります。ワークショップでは、学芸員さんが研究中の標本を出してくださることもあり、実物をリアルに感じることができます。例えばアンモナイトの化石とか、インターネットや図鑑で見て「それ知ってる」という子も多いですが、実際に触れてみたり、その化石を見つけた時の様子を学芸員さんから聞いたりすると、図鑑の中で平面だったものが立体的になり、いきいきと存在感を現わしてくるんです。」

学芸員の化石の話に、こどもたちは興味津々

米澤さんたちが特にこだわっているのは、伝える内容の正確さ、そして、こどもにどんな風に伝えるか？ということ。

まずは博物館の学芸員にしっかりとヒアリングを行ってワークショップのテーマを決めます。そして、見たり、聞いたり、触れたりしながら、こどもたち自身が何かに気付く仕掛けを考えていきます。

「学芸員さんが研究されていることは、専門的で難しいことが多いですが、私たちはその通訳者のような存在で、聞き取った内容をかみ砕いて、こどもたちに分かるように伝えることが大事だと思っています。だから、自分が「なんでだろう？」と感じたことは、学芸員さんにあきれられても、こどもと同じ視点に立って、どんどん聞くようにしています。」

毎回のようにワークショップに参加するこどもも多く、中には3歳の頃から参加し、現在は大学生となってセンターのボランティアスタッフとして活躍している人も。米澤さんたちのたゆまない努力が、博物館のファンづくりにも生かされています。

ワークショップ中の米澤さん

博物館を飛び出して地域で自然の魅力を発信

ワークショップの取組みは、博物館を飛び出して、動物園や学校、図書館、さらにはショッピングモールや企業のCSR（社会貢献）イベントなど、さまざまな地域や場所に広がっています。

「近くに博物館がない、博物館に出かけるまでの興味はない、という人も多いと思います。本などの知識だけではなく、自然は実際に感じてもらうことが大切だと考えているので、だったら自分たちから出向いていこうと、およそ10年前から始めています。」

依頼された現場には、博物館から借りた大きな骨格標本などを抱えて出かけることも。動物園など、その施設で飼育されている生き物をテーマにした内容をリクエストされることも少なくありません。

「たとえば動物園では「可愛いな」「何を食べているんだろう？」といった枠を超えて、その動物が本来暮らしている自然の環境まで知ってもらえるようにしています。」

米澤さんの話を聞いていると、いきいきとした表情で話に聞き入るこどもたちの姿が目に浮かびます。

ワークショップで工作したアンモナイトの消しゴム

また、その時々のテーマによって、アンモナイトから型取りをした消しゴム、恐竜の貼り絵、セミの羽根模様のストラップなどをみんなで工作。家に持って帰ってもらうことで、ワークショップで知ったことを家族に話しながら振り返ったり、生まれた疑問を調べてみたり、次の興味へとつなぐツールとして生かしています。

こうして行われてきた出張ワークショップは、これまでおよそ150件。累計参加者数は、1万4000人以上にものぼりました。

友の会の月例ハイキングで自然の中へ

行動につなげる発信で自然を守り、そして未来へ

センターが事務局を務める『大阪市立自然史博物館友の会』(以下、友の会)は、月例ハイキングなどを開催。毎月、大阪近郊の海や山、川などに出かけて自然観察会を行っています。コロナ禍の現在は定員を30人程度に限定していますが、多い時にはおよそ100人が参加することも。こども連れの家族だけではなく、自分自身の趣味として多くの大人たちも楽しんでいます。

また、博物館の裏庭につくられたビオトープ(自然循環の仕組みを取り入れた、生き物たちの生息地)の観察会や、普段は入ることのできない博物館の研究室や収蔵庫を見学するバックヤードツアーも開催。自然に関する記事や行事案内を満載した月刊誌『ネイチャースタディ』の発行も行っています。

さらに毎年11月に開催される『※大阪自然史フェスティバル』の主催者として、さまざまな講演会や体験講座を企画。地域の人や友の会メンバーが自然に親しむ機会として、また、自然愛好サークルの発表やつながりの場として発展し、今年の開催で19年目を迎えました。

「これまでの取組みを通じて、自然の魅力を伝え、興味を持ってもらったり、好きになってもらうことはできたかな、とは感じています。ただ、SDGsという観点から考えると、行動を変えていくことが大事です。今後はワークショップでも、私たちの便利な生活が生き物に負荷を与えているという現状を理解してもらい、プラスチックごみを増やさない、水を汚さないなど、こどもたちがいま自分にできることに気づくことができるように考えていきたいと思っています。」

小さな気づきを行動に変えて、自然あふれる未来へ。博物館で、そして地域のさまざまな場所で、米澤さんたちはこれからも自然の素晴らしさを私たちに発信し続けてくれることでしょう。

※2020年・2021年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため対面開催を見送り。

多くの自然愛好家が集まる「大阪自然史フェスティバル」

ビオトープで実ったお米をみんなで稲刈り

問合せ

認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館内
TEL 06-6697-6262　FAX 06-6697-6306
Eメール　center@mus-nh.city.osaka.jp
www.omnh.net/npo

森が戻ってきた。
鳥や虫や動物が戻ってきた。
みんなに笑顔が、戻ってきた。

再生プロジェクトを行っているパリヤン地区の小学校の児童から贈られた絵。
「わたしたちを守って!」という動物たちのメッセージをこめて、描いてくれました。

インドネシア熱帯林の再生プロジェクト

きっかけは、私たちが毎日使っている紙の原料となる木材を
少しでも地球に返したいという思い。
たくさんの生き物が暮らす森を取り戻すことで
地球温暖化を防ぎ、生物多様性を守ること。
そして、地元の人々の生活を助けること。
地元の子どもたちの明るい笑顔を力にして
私たちは これからも、未来を育む活動をつづけていきます。

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上
三井住友海上火災保険株式会社 www.ms-ins.com

3 すべての人に健康と福祉を

5 ジェンダー平等を実現しよう

生きづらさを乗り越えて『性別違和』当事者に寄り添う

ライフホスピタリティマネジメントサービス 山﨑 あおい

『性別違和』[※1]とは、出生時に身体構造に割り当てられた性に違和感を持ち続け、生まれた時の性別とは違う性別で生きる人、生きたいと望む人を表し、岡山大学[※2]の研究グループでは、日本における性別違和の人口割合を約0.3%(狭義)～1%(広義)と算出しています。

『ライフホスピタリティマネジメントサービス』代表の山﨑あおいさん(以下、山﨑さん)は、性別違和当事者。自身の葛藤や社会の偏見に苦しみ続けてきた経験を生かし、1級心理カウンセラーとして、同じ当事者の人たちの支援を続けています。また、企業や医療従事者などに向けてのセミナー・講演会も数多く開催。性別違和についての正しい理解啓発に力を注ぐ山﨑さんに話をお伺いしました。

男性として生まれ、本当の自分をさがし続けた38年間

COMVO 山﨑さんが、ご自身の中で最初に違和感を意識したのはいつ頃ですか?

山﨑 幼稚園の時ですね。家の中ではトイレもお風呂も共用だったのに、制服やトイレなど、さまざまなことが男の子、女の子に分けられていて「どうしてかなぁ」と。それが性別に対する違和感だとは気づいていなかったですが。

COMVO 成長につれ、違和感はますます大きくなっていったのでしょうか。

山﨑 身体が男性で生まれてきましたから、自分の中にある女性的な感覚をずっと否定し続けていました。なので、男性の多い環境に身を置けば正常な感覚になるのではないかと思い、進学では工業高校を選び、建設関係の企業に就職しましたが、自分の中にある違和感はずっと残ったままでした。

女性と結婚もしましたが、男性として人生を歩むのは無理だと感じて離婚し、うつ病にもなりました。そんな頃、性同一性障害というものがあることを知り、大学病院の[※3]ジェンダークリニックを受診したところ、38歳の時に性同一性障害(以下、性別違和)の診断を受けたんです。

COMVO 診断が出た時、どんな思いでしたか?

山﨑 とてもほっとしました。頑張って治そうとしても、治らないのは当たり前だったんだと。それからは自分の感じる性別で生きていこうとホルモン治療を始めました。そして、女性の自分として働ける仕事を探したいと思ったんです。

COMVO 就職活動でも辛い経験をされたそうですね。

山﨑 履歴書は戸籍上の名前を記載する必要がありますから、男性名なのに女性の服装で来たのか…と。面接まで進めず、「履歴書だけ預かっておきま

す」と言われるケースも多く、法律上の改名を決心しました。

今は性別違和の人も普通に就職活動ができる時代になってきていますが、当時、社会の性別違和に対する認知の低さ、間違った知識を実感したことが、啓発・カウンセリング活動を始めるきっかけにもなりました。

山﨑あおいさん

人と人として尊重しあい 誰もが思いやりあえる社会へ

COMVO 現在は、1級心理カウンセラーとして当事者の皆さんの支援に力を注いでおられますが。

山﨑 小・中・高校などの教育現場では、性別違和についての意識が変わりつつありますし、若い世代の当事者問題に力を入れておられる団体も多くあります。

でも、性別違和の人々の老後的な問題がクローズアップされておらず、私は、中・高齢当事者の、特に介護・医療問題に力を入れています。

COMVO 介護や医療の現場では、どんな問題が起きているのでしょうか?

山﨑 例えば、性別違和の人が病気で入院した時。身体構造が男性だと、男性と相部屋で入院し、男性のスタッフに介助をされて、辛い思いをした人も多くいます。

より生きづらくなる場合があるのでカミングアウトしている人は圧倒的に少ないし、病気やけがをしても病院に行きたくない、という当事者は多いんです。

なので、当事者や、実際に性別違和の人に対応された看護師さんなどを講師に招き、医療問題を考えるセミナーなどを開催しています。

COMVO 医療の分野以外にも課題だと感じておられることはありますか?

性的少数者への理解を深める意見交換会を開催

山﨑 性別違和が取り上げられる機会が多くなり、理解してくれる人が増えてきたと同時に、間違った情報から「趣味や性癖の問題」などと認識している人も増えてきているんです。

講演会などでも「当事者の人とどのように関わっていけばいいですか?」とよく聞かれますが、その質問こそが偏見だなぁと感じます。

もし、周囲に性別違和の人がいても今まで通りに接してほしいし、いろいろと気を使うのはお互いが生きづらくなると思います。

私は常に「区別は差別の始まり」と感じています。区別し、比較することで否定・肯定に意見が分かれ、そこから差別が生まれるのではないかと。時代に求められている多様性とは、区別することではなく、いろんなものが当たり前のように混ざり合っていることではないでしょうか。

医療・介護分野をテーマに行われた講演会

COMVO 一人ひとり、みんなが違うということを認め合いながら、誰もが生きやすい、多様性のある環境を創っていきたいですね。本日はありがとうございました。

※1 広く『性同一性障害』という名称が使われてきたが、障害(疾病)ではなく個性であるという考えが広まり、現在は『性別違和』と表現されている。また、『性別違和』の人の中には、医師から診断をされている人、診断を希望しない人が存在し、その総称として『トランスジェンダー』という表現が使われている。

※2 出展:岡山大学プレスリリース https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id974.html

※3 精神神経科、産科婦人科、泌尿器科などの専門家がチームとなり、性別違和の悩みをもつ個々の患者の診断確定や身体的治療の適応判定を行う医療機関

問合せ

ライフホスピタリティマネジメントサービス

Eメール info@lhmservice@gmail.com

https://lhms.jp/

情報マーケットP10②にイベント情報を掲載

令和5年度 大阪市ボランティア活動振興基金助成のご案内

大阪市内における地域のさまざまな福祉課題の解決のために取り組み、ボランティア活動の振興及び地域福祉の向上・増進・推進に寄与する福祉ボランティア活動を支援します。

助成対象期間 令和5年4月1日(土)から令和6年3月31日(日)まで

申請受付期間 令和5年2月1日(水)～2月28日(火) **郵送受付のみ** ※2/28の消印有効

助成金額 総額4,355万円

	助成項目[助成種別]	申請上限額
1	人材(担い手)育成支援【事業助成】	30万円
2	居場所づくり支援【事業助成】	25万円
3	活動支援(拡充・再開)【事業助成】	25万円
4	新しく創り出す活動支援【事業助成】	100万円
5	立ち上げ支援(事業)【事業助成】	50万円
6	立ち上げ支援(改修)【団体助成】	80万円
7	運営継続支援【団体助成】	5万円

※助成項目により条件が異なります。詳細はホームページをご確認ください。

対象となる団体

大阪市内で福祉課題・地域課題の解決に取り組む非営利の活動団体
- ＊法人格は問いません
- ＊実動者は5人以上であること
- ＊大阪市内での活動実績があること

申請書送付先・問合せ先

大阪市ボランティア・市民活動センター(P14参照)

ボラ基金

令和4年度大阪市ボランティア活動振興基金※活動支援交付団体へ突撃取材

※福祉課題・地域課題に取り組む活動の継続的な実施を目的とした事業の支援

『ダブルケア』の人たちの身近な拠り所

任意団体 君彩(きみどり)

『任意団体 君彩』(以下、君彩)は、育児と親の介護、配偶者と親の介護など、『ダブルケア』(多重ケア)を担う人たちの支援に取り組んでいます。

内閣府の調査によると、2013年のダブルケア当事者は25万3千人。10年前より晩婚・晩産化が進む中、今後はさらに増加すると推測されています。

「ケアに負担がかかることで仕事につけず、社会から孤立してしまう人も多くいます。また、こどもにも家事や介護の負担がかかり、ヤングケアラーの問題につながってしまいかねません。」

ダブルケア当事者の居場所づくりを大切に

そう話す代表の宮内葉子さん(以下、宮内さん)もダブルケアの当事者で、3年前から、当事者と支援者の交流の場をオンライン上で開催。今年の7月からは、城東区社会福祉協議会内で、身近に対面で話せる『ダブルケアカフェ』の運営も始めました。セミナーや講習会、地域イベントでのパネル展など、ダブルケアの周知活動も意欲的に行っています。

「今後は、当事者の人が相談しやすい環境を充実させながら、支援について考える機会も増やしていきたい。そして誰が当事者になったとしても、支え合い、笑顔で過ごしていける社会にしていきたいですね」と、前向きな想いを話してくれた宮内さん。『君彩』の今後の活躍に多くの期待が注がれます。

問合せ

任意団体 君彩
Eメール kimidori.member@gmail.com
https://kimidori-wcare.com/

情報マーケットP11⑦にイベント情報を掲載

第8期 ときどき〝記者〟よーせー講座を開催

2022年11月、第8期「ときどき〝記者〟よーせー講座」が、7日・14日の二日間に分けて、約10名の受講生が参加して開かれました。

一回目は『取材のコツを学ぶ』講座で、実際に取材対象を設けての模擬取材がメインでした。2グループに分かれて、全員が順番に取材をしていく形で行われましたが、講座時間の関係上、その場で質問を考えねばなりません。次々と質問を思いつき質問していく人、自身の感想を言った後に質問をする人などさまざまです。私は質問を考え、必死にメモを取った結果、無事記事に使える情報を得ることが出来ました。

取材対象者を囲んで、模擬取材を体験！(第1回目)

二回目は『文章の書き方を学ぶ』講座で、前回の取材で得た内容を記事にするというものでした。講師からは、原稿作成に進む前にいくつかのポイントが伝えられました。それは、ひとつの文にひとつの意味を持たせることや、文章に一貫性を持たせることなどです。参加者の皆さんは与えられた少ない時間の中、出来る限り納得のいくものを作ろうとペンを走らせていました。

私はこの二日間の講座を終えて、取材と文章作成への興味が一段と強まりました。今回の講座で学習したことを実際の取材で活かしていきたいと思います。取材に行く日が楽しみです。

ときどき〝記者〟西田 和生

今後のときどき〝記者〟の皆さんの活躍にどうぞご期待ください！
『COMVO』編集部

おいでよ！地域のこどもたち

こども食堂や学習支援など、大阪市内各地で広がる〝こどもの居場所づくり〟の取組みをご紹介します。

こどもたちの笑い声がたえない場所

こども食堂すまいる遠里小野(おりおの)(住吉区)

『こども食堂すまいる遠里小野』は2017年に代表の近江三奈子さん(以下、近江さん)をはじめとした『住吉区母と子の共励会』の元役員5人で立ち上げました。

毎月第2・3金曜日に大阪市営遠里小野第2住宅集会所で開催され、小学生からその保護者まで、さまざまな年齢の人たちが集まります。

こども食堂を始めたきっかけは、近江さん自身が母子家庭であったことが大きいといいます。当時、自身のこどもを、近所の人たちが代わりに面倒を見てくれていたことの恩返しとしての意味を込めており、「スタッフが少ないから大変だけど、子どもたちが笑顔で来てくれる限り続けたい」と、近江さんは話します。

食堂の参加費はこどもたち自ら集めて計算します

小学校が終わった午後4時頃から、こどもたちの「こんにちはー！」という声がポツポツと聞こえはじめ、午後5時半にはまるで町の集会所のように賑やかになりました。

この日のメニューはチキンカツカレー。こどもたちの目がキラキラと輝きます。

話を聞く中で、近江さんからは「こどもたちがここで元気でいられるんやったら、それで十分やね」と、素敵な言葉が。「こども食堂すまいる遠里小野」は次回もきっと、たくさんのこどもたちの笑い声であふれていることでしょう。

問合せ
こども食堂
すまいる遠里小野
TEL・FAX 06-6608-0850

令和4年度 地域こども支援ネットワーク事業シンポジウム（地域福祉シンポジウム合同開催）

わたしたちに何ができるのか みんなで一緒に考えてみませんか?

こどもたちが自分らしく生きるために

～ヤングケアラーについて知る・学ぶ・理解する～

日時 令和5年1月29日(日)　13:00～16:00　受付は12:30から

会場 **大阪市社会福祉研修・情報センター 5階 大会議室**
（西成区出城2-5-20）

定員 会場:50人　オンライン:300人

対象 こどもの居場所活動に関心のある人

申込 令和5年1月22日(日)までに
申し込みフォームにてお申し込みください
（先着順）

申込フォーム

参加無料

基調講演 **木村　泰子 氏**（大阪市立大空小学校　初代校長）

『支援』を問いなおす
～「みんなの学校」が教えてくれたこと～

【プロフィール】
大阪府生まれ。
2006年に開校した大阪市立大空小学校の初代校長を9年間務める。
大空小学校では「すべての子どもの学習権を保障する」という理念のもと、教職員や地域の人たちとともに障害の有無にかかわらず、すべての子どもがいつもいっしょに学び合っている。2015年には大空小学校の1年間を追ったドキュメンタリー映画「みんなの学校」が公開され、大きな反響を呼んだ。この映画は文部科学省の特別選定作品にも選ばれ、現在も全国各地の教育現場などで自主上映されている。2015年春に、45年間の教員生活を終え、現在は講演やセミナーで全国の人たちと学び合っている。

パネルディスカッション **「ヤングケラーについて」**

■コーディネーター
・石田 易司 氏　（桃山学院大学名誉教授、地域こども支援ネットワーク事業運営協議会代表）
■アドバイザー
・木村 泰子 氏　（大阪市立大空小学校　初代校長）
■パネリスト
・南 多恵子 氏　（NPO法人 ふうせんの会 事務局長）
・当事者メンバー　（NPO法人 ふうせんの会）

ボランティア募集、イベント・セミナー情報いっぱい！

情報マーケット

Information Market

『参加してみたい！』と思ったり、
内容について聞いてみたいことがあれば、
各団体まで直接『コンボを見て』とお問い合わせください。

ボランティア募集などの情報

イベント・講座・セミナーなどの情報

その他、助成金などの情報

OCVAC のウェブサイトから団体ホームページに簡単アクセス！

1. 気になる情報があれば、スマホで下記QRコードをQRコードリーダーで読み取る
2. 画面を下にスクロールして『COMVO』最新号の表紙写真をタッチ
3. 情報マーケットページで、気になる情報掲載団体の URL をタッチ
4. 団体ホームページにアクセスできます！

★『COMVO』のバックナンバーもご覧いただけます

④ゼロから実践できる新米パパのための育児講座

クレオ大阪子育て館
https://creo-osaka.or.jp/north

土日祝 継

新米パパが子育てを楽しむために、子どもとの関わり方や急な病気・ケガへの対応について学びます。また、パパ同士の交流もあります。

日　程 2023/2/11（土・祝）、2/25（土）全2回 14:00～16:00
場　所 クレオ大阪子育て館（北区天神橋6-4-20 7F）
地下鉄「天神橋筋六丁目」駅3番出口から連絡
JR「天満」駅から北へ徒歩約10分
人数・条件 1歳6ヶ月までの子どもの父親
定員20人（先着順）　参加費：無料
※一時保育あり（3ヶ月～1歳6ヶ月）/定員10人（要事前申込2/1締切）
申込方法 電話・FAX・ホームページ・来所

問合せ▶ 〒530-0041　大阪市北区天神橋6-4-20
TEL/06-6354-0106　FAX/06-6354-0277
Eメール　info@osaka-kosodate.net（担当：岸）

①おとな食堂、こども食堂のボランティアスタッフを募集！

特定非営利活動法人希望の居場所
http://1000c.jp

平日 土日祝 継

毎週火曜日に高齢者向けのおとな食堂、第3土曜日にこども食堂をしています。調理や接客をお願いします。

日　程 おとな食堂：2023/1/10（火）・17（火）ほか毎週火曜日 10:30～15:00
こども食堂：2023/1/21（土）ほか毎月第3土曜日10:30～15:00
場　所 希望の居場所（都島区都島本通3-26-24）
地下鉄「都島」駅1番出口から徒歩5分
JR「桜ノ宮」駅東出口から徒歩12分
人数・条件 どなたでも（定員：先着順）　交通費・食事あり
申込方法 電話・FAX・Eメール・郵便・HP・来所

問合せ▶ 特定非営利活動法人希望の居場所
〒534-0021都島区都島本通3-26-24
TEL/06-7175-4748　FAX/06-7175-1099
Eメール　1000c.eikan@gmail.com（担当：前田）

⑤認知症になっても私らしく暮らせるのは…どこ？

高齢社会をよくする女性の会・大阪
http://wabas-osaka.life.coocan.jp/

土日祝 単

人生100年といわれるようになった今、高齢期に現れる認知機能の衰えは、他人ごとではなく、"我がこと"になりつつあります。その日が来た時に備えて講師と参加者みんなで一緒に考えましょう。

日　程 2023/2/11（土・祝）13:30～16:00
場　所 ドーンセンター 4F 大会議室②（中央区大手前1-3-49）
人数・条件 どなたでも　参加費：会員/500円、会員外/1,000円
申込方法 FAX・Eメール

問合せ▶ TEL・FAX/06-6762-0550
Eメール　wabas-osaka@mbm.nifty.com

②性的少数（LGBTQ）当事者の方々と交流会

ライフホスピタリティマネジメントサービス
https://lhms.jp/

土日祝 単

性的少数（LGBTQ）当事者内外との意見交換や相談・共有を行い、お互いに気付きが出来るスペース

日　程 2023/1/8(日) 13:30～16:20(開場13：25～)
場　所 クレオ大阪中央館 会議室1（天王寺区上汐5-6-25）
地下鉄「四天王寺前夕陽ヶ丘」駅1番出口から徒歩5分
人数・条件 どなたでも　定員：12人(先着順)　参加費：無料
申込方法 HP

問合せ▶ TEL/080-8322-5530　FAX/06-7635-8664
Eメール　info.lhmservice@gmail.com（担当：山崎）

⑥親子向けLFCコンポスト講座

NPO法人 子どもセンターあさひ
http://www.kodomo-center.org/

土日祝 単

LFC（ローカルフードサイクリング）さんが都会でも取り組みやすいように開発されたバック型コンポストを活用する堆肥作りを親子で学びます。

日　程 2023/1/22（日）10:30～12:00
場　所 子どもセンター（旭区高殿6-17-10）
地下鉄「関目高殿」駅4番出口から徒歩7分
地下鉄「関目成育」駅から徒歩10分
人数・条件 どなたでも　定員：10組（先着順）
参加費：親子一組1,000円
申込方法 FAX・Eメール・HP

問合せ▶ TEL/06-6951-0055　FAX/06-6951-0056
Eメール　asahi@kodomo-center.org（担当：宮本）

③天体観察会『木星,火星,土星と金星の接近を見よう』

関西で星を学ぶ会
https://sites.google.com/view/kansaidehoshi/

土日祝 単

惑星が輝く季節です。「木星」と地球に接近する「火星」が良く見えます。低空ギリギリで「土星」が「金星」が開始直後に短時間で見えます。

日　程 2023/1/21（土）18:10～20:00
場　所 浅香中央公園　中央の広場（住吉区浅香1-6）
地下鉄「あびこ」駅4番出口から徒歩8分
JR「杉本町」駅から東へ徒歩8分
人数・条件 どなたでも　参加費：無料
申込方法 申込不要

問合せ▶ TEL/090-8121-6929
Eメール　k337yjunamg@gmail.com

⑪関西いのちの電話 第40回公開講座「取材から見えてきた児童虐待」

土日祝 単

社会福祉法人 関西いのちの電話
http://kaindnew.com

児童虐待、家族問題、ひきこもり、自死などについて、多く取材をされているルポライター、杉山春さんをお迎えして行います。

日　　程 2023/2/12(日) 13:30～(13:00開場)

場　　所 ドーンセンター ホール(中央区大手前1-3-49)
京阪電車・地下鉄「天満橋」駅1番出口から350m
JR「大阪城北詰」駅2番出口から550m

人数・条件 一般市民対象　参加協力費:1,000円(当日1,200円)
定員:400人(予定)

申込方法 電話・FAX・Eメール

問合せ▶ TEL/06-6308-6868　FAX/06-6308-6180
Eメール　kaind@x.age.ne.jp (担当:増田)

⑫外国人家族のための教育相談会

土日祝 単

NPO法人 おおさかこども多文化センター
http://okotac.org/

子どもの学校生活、大阪の高校入試制度、教育に関する相談。子どもの在留資格制度については専門家が対応。通訳有(自前に申込)

日　　程 2023/1/29(日) 14:00～16:30

場　　所 国労大阪会館 3階 大会議室(北区錦町2-2)
JR「天満」駅から徒歩3分
地下鉄「扇町」駅から徒歩5分

人数・条件 外国人家族・支援者及び学校教員　定員:30組　参加費:無料

申込方法 FAX・Eメール・Google form　締切:12/28(水)

問合せ▶ TEL・FAX/06-6586-9477
Eメール　osakakodomo@gmail.com (担当:村上)

⑬障がい児童をお持ちのご家族さんが交流できる居場所がスタートしました!

土日祝 継

げんキッズ

障がい児童をお持ちのご家族さん、一歩出て集まりませんか?

日　　程 毎月第3土曜日　※詳細時間はお問い合わせください

場　　所 大正区社会福祉協議会
(大正区小林西1-14-3 大正区ふれあい福祉センター内)
JR「大正」駅
市バス「小林」から徒歩5分

人数・条件 障がい児童とご家族の方　参加費:無料

申込方法 電話、Eメール

問合せ▶ TEL/070-2266-1313
Eメール　k_k_kazu_1313_smile@au.com

⑭2022年度 近畿ろうきんNPOアワード

近畿労働金庫
https://www.rokin.or.jp/npo/npo_award/

「子育て支援活動」をすすめるNPO法人やボランティア団体の事業に助成します。

助成対象 ①子どもの成長を応援する事業　②子育て環境を整える事業
※国内で実施する新規プログラムが対象。昨年度からの継続事業でも可

応募対象 近畿2府4県に主たる事務所を置き、非営利の市民活動・ボランティア活動を行うNPO法人、一般社団法人(非営利型)、法人格のない任意団体
※宗教活動や政治活動を主たる目的とした団体は除きます。

助成金額(予定) 〈はばたきコース〉大賞50万円×1 優秀賞30万円×2 奨励賞20万円×5団体
〈はぐくみコース〉10万円×4(予算規模200万円以下の団体を応援)

応募方法 HPから申請書をダウンロードして必要事項を記入のうえ、提出書類を添付して郵送

応募締切 2023/1/31(火)必着

問合せ▶ 近畿労働金庫 地域共生推進室 〒550-8538 西区江戸堀1-12-1
TEL/06-6449-0842　FAX/06-6449-1414 (担当:平尾、三田)

⑦認知症×発達障害 ケアを学ぶ ～ケアする人もケアが必要な人も笑顔で過ごせるために～

平日 単

任意団体 君彩
http://kimidori-wcare.com

子育てや介護など複数のケアを担うダブルケアの周知活動を行なっています。ダブルケアの課題のひとつでもある認知症や発達障害のケアを学びませんか?

日　　程 2023/1/11日(水)　第一部 10:00～12:00　第二部 13:00～15:00

場　　所 クレオ大阪東(城東区鴫野西2-1-21)
JR「京橋」駅南口から南へ徒歩約7分
地下鉄「大阪ビジネスパーク」駅4番出口から東へ徒歩約9分

人数・条件 どなたでも　定員:50人(先着順)　参加費:無料

申込方法 以下の問合せ先まで電話・FAX・HP・来所

問合せ▶ クレオ大阪東
〒536-0014　城東区鴫野西2-1-21
TEL/06-6965-1200　FAX/06-6965-1500
URL/https://creo-osaka.or.jp/east/

⑧発達に課題をかかえる人を支えるICT利用

平日 土日祝 単

大阪YMCA総合教育センター
http://www.osk-ymca-intl.ed.jp/hc/counseling/

発達の課題がある子どもたちが学びやすくなるために、教育現場でICT機器の取り入れ方等、具体的な利用方法をお話しいただきます。

日　　程 2023/2/6(月)～2/19(日)

場　　所 オンデマンド配信にて開催

人数・条件 どなたでも　参加費:3,000円

申込方法 HP　締切:2023/1/29(日)

問合せ▶ TEL/06-6441-0988　FAX/06-6443-7544
Eメール　soudan@osakaymca.org (担当:高松)

⑨「2023年度音訳ボランティア養成講習会(1)」受講生募集

平日 継

社会福祉法人 日本ライトハウス情報文化センター
http://www.lighthouse.or.jp/iccb/

音訳ボランティアを志す方対象の講習会です。発声など基礎中心で、修了後は「音訳ボランティア養成講習会(2)」に進んでいただけます(試験あり)。

日　　程 2023/4/12～2023/8/2の毎週水曜日 13:00～14:50　※5/3は休講

場　　所 日本ライトハウスビル西区江戸堀1-13-2
地下鉄「肥後橋」駅2号出口から出てすぐ左

人数・条件 受講前テストに合格した方　参加費:7,000円　定員:12人程度

申込方法 FAX・Eメール・郵便・来所　締切:2023/2/1(水)必着
※申し込みには申込書の提出が必要となります。
募集要項・申込書は当センターHPからダウンロードできます。

問合せ▶ 〒550-0002 西区江戸堀1-13-2
TEL/06-6411-1017　FAX/06-6441-1027
Eメール　rec@iccb.jp (担当者:内藤)

⑩週末里親相談会～週末さとおやってなあに～

土日祝 単

一般社団法人 大阪市児童福祉施設連盟 里親支援委員会

様々な事情で親と離れて施設で暮らす子どものための「週末里親」という制度があります。実際に週末里親をしている方に、体験談を語って頂きます。

日　　程 2023/2/25(土) 14:00～16:00

場　　所 大阪市西区民センター 3F 第4会議室(西区北堀江4-2-7)
地下鉄「西長堀」駅7番出口から徒歩2分
地下鉄「西長堀」駅3番出口から徒歩2分

人数・条件 どなたでも　定員:30人(先着順)　参加費:無料

申込方法 FAX・Eメール　締切:2023/2/15(水)　※申込開始は2023/1/15(日)～

問合せ▶ 社会福祉法人 聖家族の家
TEL/06-6699-7221　FAX/06-6699-7243
Eメール　holyfamily@luck.ocn.ne.jp (担当:萱津)

単 単発的な活動　継 継続的な活動　平日 平日に開催　土日祝 土日祝に開催　食事あり　交通費支給　初心者OK

NPO団体 リアルレポート

活発に市民活動に取り組むNPO団体からのメッセージをリレースタイルでお届けします。

地域にも学校内にも敷居の低い居場所を

NPO法人 あそーと

大阪市城東区を拠点に、市内北東部・北河内地域にて障害のある人への支援と高校生への支援を行っています。当法人の活動テーマは「居場所」です。

活動拠点である大阪市城東区の『book and café cocoaru(ココアル)』ではブックカフェの店舗営業、ドリップバッグコーヒーの製造販売、雑貨の制作、古本の販売、を通じて障害のある人への就労支援に取り組んでいます。個別のスペースを多く用意し、週1回1時間の利用も可能です。敷居が低く居場所のような就労支援・就労支援の第一歩目、が『cocoaru』のテーマです。

もう一つの活動である高校生支援では、大阪府教育庁の事業を受託し、府内2校で高校内居場所カフェを運営しています。高校内居場所カフェとは、どの生徒でも利用ができる校内のカフェです。そこではリラックスした音楽が流れていて、無料のドリンクやおやつを片手に、自由に過ごすことができます。相談が無くても(何も言わなくても)利用ができる敷居の低い居場所を校内に作り、困り感を抱える高校生との出会いの接点作りを行っています。

当法人の活動も来年で10年となります。今後も「居場所」を通じた支援を広げていけるように、共に活動する皆様と一緒にコツコツと取り組んでいきます。

https://npo-assort.com/

居場所としての心地よさを就労支援の場にも

⑯令和5(2023)年度 住まいとコミュニティづくり活動助成

一般財団法人 ハウジングアンドコミュニティ財団
http://www.hc-zaidan.or.jp/index.html

今日の住まいとコミュニティに関する多様な社会的課題に対応するため、「コミュニティ活動助成」と「住まい活動助成」の二本立てとし、それぞれに対して助成を行います。

助成対象 営利を目的としない民間団体(特定非営利活動法人、法人化されていない任意団体など)※詳しくはHPを参照
助成金額 1件あたり120万円以内
応募方法 HPから応募要項・申請書をダウンロードして、必要事項を確認・記入のうえ、提出書類を添付して郵送
応募締切 2023/1/10(火)必着

問合せ▶ 一般財団法人 ハウジングアンドコミュニティ財団(助成係)
〒105-0014 東京都港区芝2-31-19 バンザイビル7階
TEL/03-6453-9213　FAX/03-6453-9214

⑮2022年度 社会貢献基金助成

一般財団法人 冠婚葬祭文化振興財団
http://ceremony-culture.jp/
一般社団法人 全日本冠婚葬祭互助協会
https://www.zengokyo.or.jp/social/fund/

地域の社会福祉事業、環境保全事業など社会貢献活動を行う各種団体等への助成及び社会貢献に資する調査・研究を目的とした事業に対する助成を行います。

助成対象団体 非営利組織(財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、その他任意団体、市民ボランティアグループも対象)※詳細はHPを参照
助成対象事業 (1)研究助成事業　(2)高齢者福祉事業　(3)障がい者福祉事業　(4)児童福祉事業　(5)環境・文化財保全事業(6)地域つながり事業(7)冠婚葬祭承継事業
助成金額 総額1,000万円(上限1件あたり50万円～200万円) ※詳細はHPを参照
応募方法 HPから所定の応募用紙をダウンロードして必要事項を記入のうえ、提出書類を添付して郵送
※対象事業により応募先が異なる為、詳細はHPを参照
応募締切 2023/1/31(火)必着

問合せ▶ 一般財団法人 冠婚葬祭文化振興財団(社会貢献基金助成 運営事務局)
〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-12 COMS虎ノ門4階 TEL/03-6273-3930

情報求む!

ボランティアの募集情報や、ボランティア・市民活動に関するイベント・セミナーの告知情報を常時、お待ちしています。どしどしお寄せください。

申し込み方法 専用フォームから情報をお寄せください。
https://ws.formzu.net/fgen/S35245908/

申込先・問合せ先 大阪市ボランティア・市民活動センター ボランティア・市民活動情報誌「COMVO」編集室
天王寺区東高津町12-10　大阪市立社会福祉センター1F
TEL/06-6765-4041　FAX/06-6765-5618
Eメール ocvac@osaka-sishakyo.jp(担当:泉・竹澤)

※募集締切は掲載希望号発行月の前々月末日とします。(例:2023年2月15日発行号(3月号)に掲載希望の場合は2022年12月末まで)

おことわり
※受付・掲載有無について、編集室からはご連絡しません。※申し込み=掲載確定ではありません。誌面に限りもあり、ご希望に添えない場合があります。※掲載された場合は、編集室から問い合わせや申し込み状況などの反響についてお尋ねする場合があります。

大切なお知らせ!!

新型コロナウイルスの感染防止のため情報マーケットに掲載の活動やイベントなどを予告なく中止・延期とする場合があります。ご了承ください。

必ず参加前に連絡して確認をお願いします

学生ボランティア活動 連載リレーコラム No.27

それゆけ！ がんばれ！

これから社会に飛び出していく学生。さまざまな活動や人との交流ができるボランティア活動。興味を持つきっかけや、現在の活動、そこで出会った人たちや仲間とのエピソードなど、若者たちのリアルな声を届けます。

国際交流活動で、人とつながる嬉しさを実感

「グローバルユース防災サミット」で司会に挑戦!
(写真提供:グローバルユース防災サミット実行委員会)

私は防災と国際交流に興味を持つ大学院生です!大学で防災に関する研究を行う傍ら、大学の国際ボランティア活動『Virtual Language Table(VLT)』に参加しています。活動内容は、アメリカで日本語を学ぶ大学生とオンラインで交流し、日本語を教えたり逆に英語を教えてもらったりと、毎週30分~1時間異文化交流を行います。

国際交流の醍醐味は日本に住んでいるだけではわからない他国の文化や価値観を学べることにあると思いますが、私はこのボランティア活動に参加して、コミュニケーション力や失敗を恐れないという考え方も身についたと感じています。毎週1時間の交流で、その日初対面の人と会話を続けることは日本人相手でも難しいことです。どのように話を振れば会話が弾むのか、相手に合いそうなトピックを選びながら英語を交えて交流するうちに、ボランティアを始めた時の緊張は消え、人とのつながりが生まれることの嬉しさを感じるようになりました。

さらにこの経験が、先日防災分野での活動にも役立ちました。「グローバルユース防災サミット」という2025年の大阪万博に向けたトルコとドイツとの防災に関する交流イベントにて、司会を務めることとなったのです。災害大国と呼ばれる日本ですが、他国の災害対策から学べることが多くあり、交流することの重要性を感じました。

どのような形でも、国際交流で知識を増やすことは自分の糧となります。これからも、つながりの輪をどんどん広げていきたいと思います!

大阪公立大学
現代システム科学研究科
和薬(わやく) 真理子(まりこ)

プロフィール
所属団体:Virtual Language Table(VLT)
趣　　味:映画・音楽鑑賞
学　　年:修士課程1年生

学生コラムライター大募集!!

情報誌『COMVO』では、ボランティア活動への思いを寄稿してくれる学生を募集中!!

ボランティアに興味を持ったきっかけや、いま活動していること、そこで出会った人たちや仲間とのエピソードなどを書いてみませんか?

対　象 大阪市域でのボランティア活動に取り組む学生(大学生・専門学校生・高校生)
※活動分野は不問。在籍学校は市外でもかまいません。

内　容 文字数500文字程度(ご本人の写真、活動中の写真もデータでご提供いただきます)

応募方法 右のフォームからお申込みください。エントリーいただいた方には折り返しご連絡いたします。

お問合せ先 大阪市ボランティア・市民活動センター
ボランティア・市民活動情報誌「COMVO」編集室
TEL.06-6765-4041　FAX.06-6765-5618 (担当:泉・竹澤)

エントリーはこちらから▶

アンケートにご協力ください！

COMVOではよりよい誌面づくりのため、読者の皆さんに毎回アンケートのご協力をお願いしています。あなたのご意見やご感想をお聞かせください。抽選で毎号5人に記念品をプレゼントします。

応募方法

①あなたの氏名、郵便番号、住所、性別、職業、年齢、電話番号、
本誌入手先、読者歴をお書きください。
②下記の１～６の質問の回答をお書きください。

1．あなたのボランティア活動歴を教えてください。
ア なし　イ １年未満　ウ １～４年　エ ５～９年　オ 10 年以上
2．活動歴のある人は活動内容を覚えている範囲で教えてください。
3．これまでに情報誌 COMVO を見て、ボランティア活動をしたことはありますか。
ア ある　イ なし　ウ まだ迷っている（その理由も教えてください）
4．今月号で良かった記事は何ページですか？その理由も教えてください。
5．本誌で取り上げてほしいテーマや活動、団体、行事、イベントなどがあれば教えてください。
6．その他、ご意見、ご感想を記入ください。

①、②の必要事項をFAXかハガキに記入のうえ、当センターまでお送りください。
※パソコン・スマホからも回答できます。
https://ws.formzu.net/dist/S38892286/

（宛先）
大阪市ボランティア・市民活動センター
「読者アンケート　情報誌COMVO273号係」まで
（住所は下記参照）
※締め切り　2023（令和5）年1月10日（消印有効）
※当選者の発表は記念品の発送をもってかえさえていただきます。
※お預かりした個人情報は、本誌の内容向上と、記念品送付の目的のみに使用します。また、募集したテーマについてご意見を誌面に掲載する場合がありますが、個人を特定される記載は行いません。

編集後記

あっという間に日々が過ぎ、今年も残すところ、あとわずか。情報誌『COMVO』はひと足お先に、1・2月合併号の発行となりました。

伝統的なお祭りやイベントなど、人が集い、楽しめる機会が、ようやく戻ってきた2022年。まだまだコロナウイルス感染症には注意が必要ですが、2023年はさらに明るく、みんながつながりあえる1年にしたいですね。

『COMVO』も、第8期ときどき”記者”さんをお迎えしてパワーアップ！読者の皆さんとも、より近くつながることのできる誌面づくりをめざしてまいります。「こんな素敵な活動を見つけたよ!」「地域のボランティアさんを紹介して!」など、皆さまからの情報もお待ちしております。お気軽に、どしどしお寄せくださいね。

ボランティア・市民活動情報誌「COMVO（コンボ）」へ広告募集!

赤枠が本文 1/5 ページサイズと同じです

「普段着のわたし、ステキにいいこと」をコンセプトにしたボランティア・市民活動情報誌COMVO（コンボ）。
大阪のボランティア・市民活動情報が満載!市民が誰でも気軽で手に入れることができるフリーペーパーに貴社の広告を掲載しませんか。

■体裁・発行・部数
B5判　16頁（フルカラー）年10回発行
■広告申し込み締切
発行日の2ヶ月前（スペースに限りがありますので、お早めに申込ください）
■申込方法
下記まで問合せください

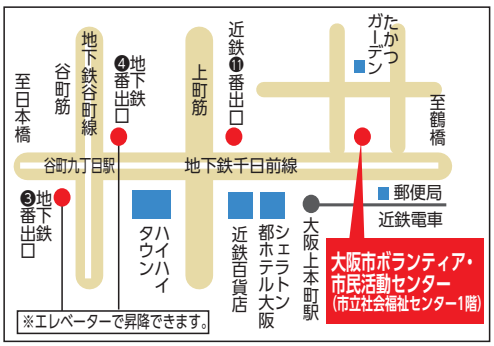
広告料金（税込）

掲載箇所スペース	料金(税込)	版下サイズ(mm)	
表4　1ページ	234,000円	240×170	
表4　1/2ページ	127,500円	117×170	
本文　1ページ	156,000円	257×182	240×170
本文　1/2ページ	85,000円	117×170	
本文　1/5ページ	38,000円	48×162	

※原稿は原寸大の完全版稿（データ）で入稿ください。
それ以外は別途製版料が必要です。
※掲載ページの指定はできません。
※内容により掲載をお断りする場合があります。

企画・発行

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会　ふれあいネットワーク
大阪市ボランティア・市民活動センター
Osaka City Voluntary Action Center
所在地／〒543-0021大阪市天王寺区東高津町12-10大阪市立社会福祉センター1F
TEL/ 06-6765-4041　FAX/ 06-6765-5618
E-mail/ocvac@osaka-sishakyo.jp https://ocvac.osaka-sishakyo.jp/
●開館時間：午前9時～午後7時（月～金）午前9時～午後5時30分（土）
●休館日：日・祝・国民の休日・年末年始　●発行日：2022年12月15日（8月と1月を除く毎月15日発行）
●発行部数：40,000部　●制作協力：商工印刷株式会社　●点訳協力：NPO法人ぽこ・あ・ぽこ
掲載写真についてはすべて、撮影・掲載の許可を得たものを使用しています。
●本誌は大阪府共同募金会の助成をいただいています



お知らせ

情報誌COMVOは年10回の発行です。
次回は令和5年2月15日発行になります。
（令和5年1月15日は休刊です）COMVO編集室

「COMVO」主な設置・配布場所　ウェブサイトからもチェック可能! http://comvo.lekumo.biz

阪神電車（梅田駅・野田駅）、大阪市サービスカウンター（梅田・難波・天王寺）、各区在宅サービスセンター（区社協）、大阪市役所・区役所、区民センター、クレオ大阪、大阪市内の各区図書館、大阪市立総合生涯学習センター・市民学習センター各館、大阪市商店会総連盟加盟商店街、大阪シティ信用金庫府内の店舗など※OCVAC（大阪市ボランティア・市民活動センター）では、バックナンバーの閲覧、入手も可能です。

twitter http://twitter.com/ocvic1998　Facebookページ https://www.facebook.com/ocvac

インドネシア バリヤン第二小学校

森と人間、
どちらも元気にする方法が
見つかった。

インドネシア熱帯雨林再生プロジェクト。地元住民が生活のために伐採した森林の再生のためには、まず彼らの暮らしを支える経済貢献が必要でした。また、植林が進んだ後は、再生した森がまた伐採されないよう、地元小学校への啓発と支援も進めました。木を植える。そのシンプルな環境貢献のために一番必要になったのは、地元で暮らす人々との対話でした。森がよみがえり、人に笑顔が戻る。私たちの環境問題への取り組みは「対話」からはじまります。

対話するエコ。
立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

24区ボランティア・市民活動センター一覧

ボランティア活動に関するご相談をお気軽にお寄せください。

名　称	所　在　地	電話(06)	FAX(06)
北区ボランティア・市民活動センター	北区神山町15-11 いきいきネット	6313-5566	6313-2921
都島区ボランティア・市民活動センター	都島区都島本通3-12-31 ふれあいセンター都島	6929-9500	6929-9504
福島区ボランティア・市民活動センター	福島区海老江6-2-22 あいあいセンター	6454-4553	6454-6331
此花区ボランティア・市民活動センター	此花区伝法3-2-27 此花ふれあいセンター	6462-1224	6462-1984
中央区ボランティア・市民活動センター	中央区上本町西2-5-25 ふれあいセンターもも	6763-8139	6763-8151
西区ボランティア・市民活動センター	西区新町4-5-14 にしながほり	6539-8075	6539-8073
港区ボランティア・市民活動センター	港区弁天2-15-1 ひまわり	6575-1212	6575-1025
大正区ボランティア・市民活動センター	大正区小林西1-14-3 大正区ふれあい福祉センター	6555-7575	6555-0687
天王寺区ボランティア・市民活動センター	天王寺区六万体町5-26 ゆうあい	6774-3377	6774-3399
浪速区ボランティア・市民活動センター	浪速区難波中3-8-8 浪速区在宅サービスセンター	6636-6027	6636-6028
西淀川区ボランティア・市民活動センター	西淀川区千舟2-7-7 ふくふく	6478-2941	6478-2945
淀川区ボランティア・市民活動センター	淀川区三国本町2-14-3 やすらぎ	6394-2900	6394-2978
東淀川区ボランティア・市民活動センター	東淀川区菅原4-4-37 ほほえみ	6370-1630	6370-7330
東成区ボランティア・市民活動センター	東成区大今里南3-11-2 ひがしなり	6977-6336	6977-6339
生野区ボランティア・市民活動センター	生野区勝山北3-13-20 おかちやま	6712-3101	6712-3001
旭区ボランティア・市民活動センター	旭区高殿6-16-1 あさひあったかセンター	6957-2200	6957-7282
城東区ボランティア・市民活動センター	城東区中央2-11-16 ゆうゆう	6936-1153	6936-1154
鶴見区ボランティア・市民活動センター	鶴見区諸口5-浜6-12 鶴見区在宅サービスセンター	6913-7070	6913-7676
あべのボランティア活動センター	阿倍野区帝塚山1-3-8 阿倍野区在宅サービスセンター	6628-3434	6628-9393
住之江区ボランティア・市民活動センター	住之江区御崎4-6-10 さざなみ	6686-2234	6686-0400
住吉区ボランティア・市民活動センター	住吉区浅香1-8-47 いきいき	6607-8181	6692-8813
東住吉区ボランティア・市民活動センター	東住吉区田辺2-10-18 さわやかセンター	6628-2020	6622-8973
平野区ボランティア・市民活動センター	平野区平野東2-1-30 にこにこセンター	6795-2200	6795-2929
西成区ボランティア・市民活動センター	西成区岸里1-5-20 はぎのさと	6656-0080	6656-0668